

① 白幡神社(祭神は やまとだけるのみこと 日本武尊)

貝渚字川口に所在。平安時代初期、弘仁二年(811)創建と伝えられている。

治承四年(1180)、石橋山の戦いに敗れて伊豆から安房に逃れてきた源頼朝が、当社に立ち寄り平家打倒と源家再興を祈願した。この際、源家の旗である白幡一流れを納め、白幡大明神と称したことから、これ以後、白幡神社と呼ばれるようになった。

安永九年(1780)には本殿の改修が行われ、武志伊八郎信由が舞物師として参加した。

毎年1月19日には、熱湯を笹の葉にひたしてふりかけ、心身を清める「湯立神事」が行われている。この神事は古い歴史を持ち、一時は途絶えていたが、最近復活した。

② 心巖寺(浄土宗)

貝渚村字石子山に所在。館山市・大巖院の末寺。本尊は阿彌陀如来。

当初は長狭郡西部の北風原きたらいはらの地に建てられたが、天文二年(1533)、「里見氏の内乱」によって焼失。天正五年(1577)、里見氏の重臣・正木頼房が土地を寄進して再興したと伝えられている。

正木頼房は石見守を名乗り、里見義弘の娘を妻としていた。天正九年(1581)の「正木憲時の乱」には、一時里見義頼に叛いたが、後に帰順。乱後大多喜の城代を務めた。やがて出家して、道俊どうしゆんといい、夫人は法号を寿慶大姉と称した。この二人の供養塔が、境内に建てられている。

心巖寺が所蔵する浄土曼荼羅三点は市の文化財に、行道面二十三点は県の文化財に指定されている。行道面とは、寺院の法会や供養の際に用いる面のこと。

③ 嶺岡牧一戦場野馬土手址・大浦木戸址(魚見塚一戦場公園内)

嶺岡牧は平安時代にはすでに存在し、戦国時代には里見氏の管理下にあったといわれている。

市内を流れる加茂川の南側に横たわる嶺岡山系は、1911(明治44)年まで、馬や牛が放し飼いにされた牧場であった。その大きさは、総面積約1,747ha、周囲は60kmと、現在の鴨川市から南房総市にまたがる広大なものであった。江戸時代に徳川幕府の直轄牧となり、最盛期である1797(寛政9)年には678頭の馬が飼養されていた。嶺岡牧では、野馬が崖から落ちたり、牧の外に出て農作物を荒らさないように、牧を土手や堀、柵で囲っていた。現在でも野間土手の跡として石垣や土盛が確認できる。

④ 馬頭観音

嶺岡牧内に所在する県下最大級の馬頭観音。馬頭観音は、大食の馬のように煩惱・才能を食いつくして人々を救済する仏であったが、江戸時代後期に馬頭観音を馬の守り神や交通安全の仏とみる民間信仰が急速に広まり、馬頭観音の石仏が立てられるようになった。嶺岡牧周辺では多数の馬頭観音が確認されている。

⑤ 魚見塚展望台～誓いの丘～

魚見塚一戦場公園内にある展望台。

前原海岸や鴨川松島など三方に開けた展望台からは、どこまでも続く大海原や鴨川の街並みが一望できる。

展望台の頂上には、郷土出身の彫刻家・長谷川昂作のシンボル女神像「曉風あけふう」があり、この像の前で愛を誓えば成就すると伝えられていることから、「誓いの丘」とも呼ばれている。

⑥ 八雲神社(祭神は 天照大神・須佐之男命・事代主命)

創建年暦の記録は残されていないが、南北朝時代の永和三年(1377)に出雲大社の分霊を移した。八雲神社ははじめ、神仏習合の教えにより、スサノオの化身である牛頭天王ごまてんのうを祭神としたことから天王宮(天王様)と呼ばれ、現在でも通称「天王様」と呼ばれている。

拝殿向拝の毫の彫刻は、三代目武志伊八郎信由の作品。

八雲神社・大浦水交団が所有する「担ぎ屋台」は、天保四年(1833)に漁業の豊漁と住民の無病息災を祈願して、巖島神社弁才天の祭祀に巡行したのが始まりと伝えられている。屋台は波間に浮かぶ小舟を表現しているとされ、「大浦の担ぎ屋台巡行」は、鴨川市の無形民俗文化財に指定されている。

⑦ 石見堂

貝渚字魚見塚に所在。磯村字北町に所在する真言宗金剛院に属す。

正暦四年(993)に高僧行基ぎょうきが自作の観音像を納めて建立したと言われられており、安房国十八番の観音霊場札所として人々の信仰を集めている。

「日本書紀」に次ぐ勅撰の歴史書「続日本書紀」によれば、行基は教えを広める傍ら、土木事業をすすめ、寺の建立にあたってと伝えられており、天平二十一年(749)二月に八十一歳で没している。

⑧ 巖島神社(弁天島) (祭神は いちきしまひめ 市杵島姫命)

磯村字弁天島に所在。通称は「弁天さま」。

由緒について、「町誌」・「神社名鑑」は、平安時代の承和年間(834-47)に唐から帰国した天台僧円仁(諡号=慈覚大師)が諸国巡歴の途次、この地にとどまり観世音菩薩と弁財天女の尊像を自ら刻み、一寺を開いて納めたと伝えている。

江戸時代前期の寛永十八年(1641)、磯村前面の浮島(後、弁天島)にイチキシマヒメいちキシマヒメの分霊を祭り、その社に弁天像を納めて浮き島弁天と称したが、後に巖島神社と改称した。

祭神のイチキシマヒメは、アマテラスが弟のスサノオを高天原に迎えた時、噴出した霧から生まれた三女神の第三子とされ、漁業・航行・財宝の神として信仰されている。

磯村弁天島の巖島神社が行う60年目と30年目の式年大祭は、それぞれ巳年本開帳、亥年中開帳と呼ばれており、岸から弁天島まで船橋が架けられ、神輿や山車も繰り出して、盛大に行われてきた。

明治二十六年(癸巳=1893)四月に行われた本開帳盛況の様子は、絵師鈴木国正が描く錦絵版画として販売され、好評を博した。この錦絵版画の複製は、市の郷土資料館に常設展示されている。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成24年9月 作図 辰野節子
